

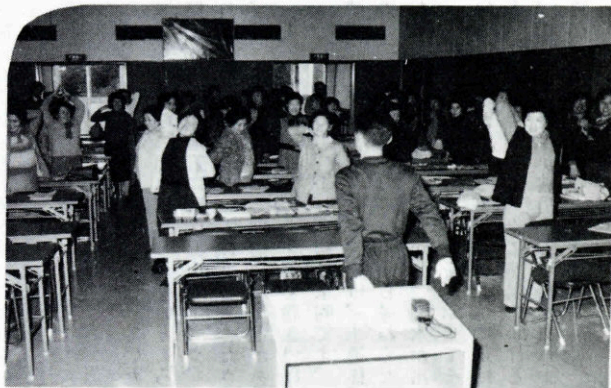
フォト・ルポ

◀火災防止の願いをこめて

正しい防災マナーを身につけるとともに、団体生活を通して友愛と奉仕の精神をつちかうことを目的に結成されている川尻少年消防クラブ（隊長原田昌尚）が11月28日、火の用心とごみのもちかえり運動を訴えようと川尻岬に自分たちが作ったトーマポールを設置した。これからの火災防止等に大いに役立つしてくれると思われます。

日置農業改良普及所、長門大津生活改善グループ連絡協議会主催による長門・大津地区婦人農業従事者セミナーが12月9日、中央公民館で開かれた。当日は、自家生産物を上手に生かすということを中心として「私の手作り加工品」と題した事例発表会や三隅町社会教育主事の大嶧先生を講師に招いて腰痛をなおすための健康ストレッチングの指導などもあり約70人の参加者は有意義なひとときをすごした。

▼もっと胸をはって

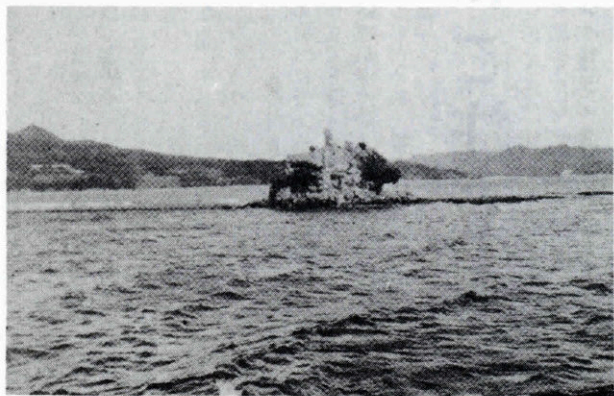


12月17日、大平小で昔からの遊びをおぼえさせ、自分で作ることの喜びをあじわせようと、たこ作りが行われ、児童たちはドラエモンなどおもしろいものタコ作りに挑戦していた。

◀手つきもなれたもの

久原の沖の女郎島は、昔は松も生えて大変景色のよい島でありましたが、今では松も減り、崩れ落ちて昔の面影はありません。むかしむかし、久原に放蕩者がおりました。この人が上方から女郎を連れて帰りましたが、家に置くと家族がやかましいので島に隠しておきました。そして、家の目を盗んで食事運び、束の間逢瀬を楽しんでおりました。

家族の者は、前からご飯の減りようがひどい、どうもおかしいと不審に思っておりました。ところが或る日のこと、その放蕩者が島に女郎を連れ、そこへ食事を運んでいることが分かってしまい、大変な騒動になりました。



久原港より女郎島をのぞむ

女郎島

黒瀬 地下上申

油谷町の昔話



居たたまれなくなった放蕩者はその女郎と二人小さい船に乗って逃げていきました。二人の行方については誰も知りませんが、所の人はいつからともなく、この島を女郎島と呼ぶようになりました。
(油谷町の昔話第一集より)